



「研究者に聞く(緑の探究I)」

5月25日の「緑の探究I」にて、1年生が研究者に直接お話を聴く機会を得ました。講師は国立研究開発法人 海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の超先鋭研究開発部門部門長の高井研先生です。



まず前半は高井先生の研究について、有人潜水調査船「しんかい6500」での深海探査や、地球深部探査船「ちきゅう」での掘削調査などのお話を伺いました。また、研究者とはどのような生活をしているのか、また外国での研究などグローバルな活躍も多い先生が大切にしていることはユーモアであることなども含め、親しみやすいお話に生徒は親近感を持った様子でした。後半は代表生徒7名のパネリストが先生に質問をしつつ、対話形式で進め

られました。プラスチックの分解性、地球の環境問題、宇宙での有機物のでき方など話題は多岐にわたりました。また、土星の衛星エンケラドゥスに水が存在することから地球外生命の可能性についての話では、生徒からその生命体がどのような形で存在する可能性があるのか、それはなぜそう言えるのかという質問が出ました。先生はそれらの質問に、エネルギー量や進化に要する時間の長さなど考慮すべき事柄を含めて丁寧に話をされていました。途中で生徒が外国でも通用するユーモアのヒントを得ようとパフォーマンスを披露する一コマもありました。

私たちの抱く「研究者」という概念を軽々と飛び越えて、普段使いの言葉で明快なお話をしてくださった高井先生。お話の中で一番心に残ったのは、「科学の世界では何百人を相手にしようが、証明された理論で渡り合うことができる、だから面白い。」という先生のスタンスでした。



アントンパタマロート高校とのオンライン交流

6月7日の放課後に、タイのアントンパタマロート高校と2回目のオンラインの交流会を実施しました。本校からは12名が参加しました。お互いの学校紹介などをしましたが、本校が12月に訪れる予定のタイ北部についても紹介してくれました。日本語を学ぶ生徒の皆さんだったので日本語でのコミュニケーションで、お互いの生活文化など質問をし合って交流を深めました。

12月のスタディツアーでは実際にアントンパタマロート高校を訪問する予定です。



ベトナム・ハノイ人文社会科学大学生との交流会

6月13日(火)午後16:00-18:00、本校のメディアルームに於いて、第2回目となるベトナムのハノイ人文社会科学大学とのオンライン交流会を実施しました。本校からは1年生から3年生まで11名、ベトナムからは9名の女子大学生たちが参加しました。全員が日本語を学習している学生たちで、たどたどしいながらも一生懸命に日本語を使ってコミュニケーションをとる姿勢に、本校の生徒達も学ぶことがたくさんあったように感じます。話題は、ベトナムの首都、領土、日本の食べ物、アニメ、学生の暮らしぶりなど、多岐にわたりました。

これから先も両校の文化交流を続けていけるとよいですね。



数学物理部 ホバークラフトの制作 on 緑高祭(6月24日、25日)

昨年に引き続き、数学物理部はホバークラフトを製作しました。その名も「ほばQ」!超小型ホバークラフト研究室 伊東氏作成の八号機を参考に、ネットで情報収集、試作機の作成の上で本機の作成に取り掛かりました(伊東氏にも連絡をとり、アドバイスをいただきました。伊東さん感謝です!)。それでもうまくいかないことだらけで、5歩進んで3歩下がるが2回くらいありました(ある程度つくと試行ができないので、5歩進んでから、3歩も下がるのか…と思いながら作り直すのです…)。

本番では、小学生、中学生を中心に楽しんでくれました。昨年も乗ってくれたお子さんが今年も乗りに来てくれました。「パワーアップしましたね!部員さんは入りましたか?」とお母さんが声をかけてくれました。「昨年乗ってくれた子が入ったんですよ!」とうれしい気持ちをお話できました。乗り終えたときのお客さんの表情を部員に見せられたのが今回の活動の一番の収穫です!

